

# イチゴジャムおいしかったね!

5歳児が4歳児の時に植えたイチゴが真っ赤に実りました。子どもたちは今か今かと収穫を待っていたので、収穫は大きな喜びとなりました



僕たちが植えたんだよ

食べたいなあ…

こっちのイチゴも真っ赤だよ!



いっぱい採れた!

イチゴの収穫を楽しみにしていたのは5歳児だけではなく、3歳児4歳児も楽しみにしていました

「このイチゴどうする?」

甘くておいしい!



自分たちが植えて育て収穫したイチゴ。まずはそのまま食べました。「美味しいから全部わたしたちで食べよう! (迫真の演技)」と担任が言うと「え、ちいさい組さんにもあげなきゃ」先生当然だよ、という子どもたちの凜とした表情と言葉に感動しました。たくさん採れたイチゴを「じゃあどうやって食べてもらおうか…」とそら・つき組会議を繰り返しました。話し合いの結果「イチゴジャム」をみんなで作ることにしました

みんなのために Let's クッキング!

みんな!美味しいジャムを作るから待っていてね!



いよいよイチゴジャムづくり!

甘い匂いだなあ…

お楽しみだよ!



一人一人ゆっくりゆっくりヘラで混ぜ、「美味しくなあれ」と心を込めて作りました

美味しくなあれ!

美味しくなあれ!

美味しくなあれ!

次は私ね!

冷凍していたイチゴを事前に解凍しました。ファスナー付き保存袋に入れ、代わり合いながらもみました

調理会場は「美味しいイチゴジャムをあげたい」という5歳児の「美味しくなあれ!」の大合唱が響き渡っていました

できあがり!

何をしているんだろう…

クラッカーにのせて食べました

「おまたせ!美味しいイチゴジャムだよ!」

どうぞ!



ありがとう!



やったあ!バンザイ!



うまい!(グー!とサムズアップポーズで)

3歳児



美味しかったよ!

完食した後はすぐにお礼の気持ちを伝えるに行きました。

4歳児



作ってくれてありがとうございました!

全部たべたよ!



「喜んでくれて良かったね」

5歳児は生のイチゴとジャムの食べ比べました。



どっちもおもしろいかな…

5歳児がイチゴジャムを食べたのは、全クラスに配った後。「まだ食べられないの?」という5歳児は一人もいませんでした。年下の友達のことを思いやる5歳児の気持ちに感動しました。



美味しいね!

植え付けから管理(マルチング、水やり、追肥など)、収穫、調理、食べる。これらを経験した5歳児。この経験で植物の生長に関する興味(科学する心)の高まりがあったと思います。ですが何より「育てて食べる」喜びを感じたと思います。また、連続した活動を通して「誰かを思い調理する」経験を5歳児はしました。3・4歳児は甘いイチゴジャムの味を通して「つき組・そら組さん大好き!」と親しみの気持ちをもちました。4歳児にとっては「あんな大きい組になりたいな」と少しずつ少しずつその想いが積み重なる経験となりました。甘くて美味しかったイチゴジャム。隠し味は5歳児の「美味しくなあれ」という魔法の言葉であることを知るのは、きっと「調理する側」になった時。イチゴ栽培を通して、半年以上にわたる活動と子どもたちの想いが重なり、素敵な瞬間と笑顔を生み出しました。